

平成24年 第1回

京田辺市議会定例会
一般質問通告書

京田辺市議会

平成24年第1回 京田辺市議会定例会 一般質問通告書目次

通告順位	議員名	ページ
1	次田典子	1
2	小林喜代司	3
3	櫻井立志	4
4	水野恭子	6
5	岡本茂樹	8
6	岡本亮一	9
7	鈴木康夫	10
8	塩貝建夫	12
9	市田博	13
10	南部登志子	15
11	河本隆志	16
12	青木綱次郎	17
13	上田毅	19

1 市教育委員会機構改革の課題と問題点

- (1) 文化の充実を目指せるのか。
- (2) 子どもや女性、あらゆる人たちの人権を尊重し、教育の中に生かせるのか。
- (3) 機構改革により、仕事のスピード化を図ることが可能なのか。現時点での問題の認識はどうか。

2 教育委員会所管の施設の改善と新設について

- (1) 中央公民館の建て替えと文化ホールの必要性
- (2) 体育館のバリアフリー化
- (3) 図書館整備（中央図書館、分館図書館、南部の新設等）
- (4) グランドと駐車場管理（一町田多目的運動広場を含めた施設併設の駐車場）

3 社会福祉協議会について

- (1) 市職員派遣を行っていたことについて
- (2) 補助金からの人件費支出のあり方について

4 安全安心なまちづくりについて

- (1) 松井山手駅周辺整備について
- (2) リムジンバス停車場所の改善
- (3) 大住駅のバリアフリー化と周辺の改善

5 電力会社との契約のあり方について

次田 典子

関西電力以外の電力会社との契約を実施する方向で検討すべきだ。

6 介護保険について

- (1) 保険料値上げは慎重にすべき。
- (2) 福祉用具等のレンタル料などの現状と見直し。

1 災害時の生活用水協力井戸の現在の登録状況について

現在、登録を推進中の災害時の協力井戸について、現在の登録状況と今後の見通しについて。

2 歯科の休日応急診療の実施について

施政方針の「安全・安心な暮らしの創造」の中で、本市は各種の施策を実施され、多くの市民から喜ばれているが、市の休日応急診療所に歯科診療を要望される声が出ているが市の考えは。

3 中央公民館の整備について

中央公民館は、建設後約40年を経過している。
市の公共施設耐震補強工事の実施とあわせて中央公民館を利用する多くの市民、団体、サークル等から、ホールの拡大、整備を要望する声が多く出ているが、今後の計画、予定について。

4 文化財保護政策について

田辺町史は昭和43年12月に発行され、田辺町近代誌は昭和62年3月に発行された。いずれも発行後、長い年月が経過している。
平成23年度の施政方針の中で「まちの移り変わりを確実に、後世に伝えられるよう史料の整理に取り組む」とされているが、市制15周年をむかえて、田辺町史、田辺町近代誌発行後の市の考えと、現在の史料整理状況について。

1 東日本大震災から 1 年、本市の防災対策について

- (1) 被災者支援システム導入に向けての進捗状況を問う。
- (2) 災害時の避難所運営を模擬体験する「HUG(避難所運営ゲーム)」を防災訓練や教育に活用してはどうか。
- (3) 災害時の避難所となる学校トイレの洋式化とマンホールトイレの整備を急ぐべきではないか。
- (4) 福祉避難所の設置に向けた準備と環境整備はできたか。

2 高齢者保健福祉計画について

- (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた課題と方策について問う。
- (2) いつまでも元気な高齢者でいていただくため、今こそ介護予防につながる介護支援ボランティア制度の早期導入を実施すべきと考えるが。
- (3) 介護保険のサービスを利用しない人への報奨金や保険料の軽減などの制度の導入をしてはどうか。
- (4) ひとり暮らしの高齢者への戸別訪問事業に対する市の考えは。

3 自転車の走行環境の整備について

- (1) 市長は、24年度事業として「自転車通行環境ネットワーク計画」を策定されるが、その概要について問う。
- (2) 府道生駒井手線で工事が進められている歩行者・自転車と自動車の分離道の供用開始はいつか。また、他地域での自転車レーンの整備の計画は。
- (3) 自転車事故が多発する中、子どもや子育て中の母親、高齢者に対する交通安全教育の実施と充実を図るべきと考えるが。
- (4) 自転車の安全運転のルール遵守とマナー向上の啓発を警察と連携し、

広報等で積極的にキャンペーンを実施すべきと考えるが。

- (5) 自転車購入時や点検時に自転車対人賠償保険の加入を制度化できるよう、国に積極的に要望してはどうか。
- (6) 自転車通学をする生徒のため、通学時の万が一の事故に対応する対人賠償保険を市が助成する制度を導入ができないか、市の考えは。
- (7) 大住中学校の遠方から通学する生徒に対して、自転車通学を許可すべきではないか、教育委員会の考えは。

1 聴覚障がい者が豊かな生活を送れるよう支援を**(1) 聴覚障がい者の環境整備について**

- ア 南部地域に「聴覚障がい者情報提供施設」をつくるよう府へ申入れを。
- イ 市に聴覚障がいについての専門知識を持った手話通訳等の正規職員の配置を。
- ウ 聴覚に障がいがある高齢者が増える中、障がい者対応の専門性をもつ介護保険施設の設置を。
- エ 老人性難聴の高齢者にも要約筆記など難聴支援が受けられるよう支援すべき。

(2) 聴覚障がい児への支援として

- ア 府立ろう学校を南部に増設するよう府に申入れを。
- イ 補聴器が必要とされた軽度・中等度の難聴児（身体障害者手帳の交付対象とならない子ども）特に乳幼児・児童に対し補聴器購入等補助を。
- ウ 聴覚に障がいのある幼児が支援を受けられるよう施設の整備と経験のある職員の配置を。

(3) 補聴器の電池を無料支給にすべき。**2 安心できる豊かな学校給食と中学校給食の実施を****(1) 安心できる豊かな学校給食は、民間委託で守れるのか。**

学校給食法に基づいた直営の給食に戻すべき。

(2) 食品に含まれる放射性物質の不安を解消するため、検査機器を購入し、保育所、学校給食、市民が持ち込んだ食材を測定できる体制をつくるべき。**(3) 中学校給食の実施計画を早期に。**

3 地域要求

- (1) 大住ヶ丘汚水処理場跡地の空き地の一部利用を早期にすべき。
- (2) 花住坂ゴルフ練習場への歩道の改善を。
- (3) 大住虚空蔵谷川の桜並木の歩道・虚空蔵谷（特にそよかぜ幼稚園わきからお堂までの間）へ通じる歩道の改善を。

1 市長の政治姿勢について

市政運営の基本姿勢について、具体的に述べられたい。

- (1) 市民との協働をどのように深化させていくか。
- (2) 職員の資質、能力の向上をどのように図っていくのか。
- (3) 財政構造の健全化をどのように維持していくか。

2 幼保一元化（一体化）について

- (1) 保育所入所希望者は、今後とも増加傾向にあると考えるが、市の認識と対策を問う。
- (2) 公立幼稚園児の数が減り続けているが、教育委員会の幼稚園管理、運営方針を問う。
- (3) 国で政策的に進められている「こども園」計画について、京田辺市においても、今後検討する考えは。

3 同志社大学との連携強化について

- (1) 2013年度、同志社大学文系学部の今出川校地への全面移転による京田辺市への影響とその対策について、具体的に述べられたい。
- (2) 同志社大学と京田辺市双方に、日常的に連携し合える窓口の設置ができないか。
- (3) まちづくりの重要なパートナーである同志社大学のシンクタンク機能を京田辺市の政策形成に実質的に生かしていくために、各学部や教室との連携を深めていけないか。

1 小規模工事登録制度について

地域経済の活性化と中小業者の経営改善のために、入札参加資格のない中小零細業者を登録し、自治体が発注する小規模な工事・修繕など、受注機会を拡大する「小規模工事登録制度」を創設すべきと考えるがどうか。

2 災害に強いまちづくりについて

- (1) 自主防災の観点から、消火栓器具庫や消火栓の定期点検・修繕などの体制を問う。
- (2) 木造住宅耐震改修補助事業において2015年度までに住宅系建物の耐震化目標値90%と定めているが、進捗状況及び、今後の課題を問う。
- (3) 耐震補強が必要な市営住宅の現状と、今後の対策を問う。

3 子ども施策について

- (1) 入所希望者全員を受け入れられるよう、早期に三山木保育所・南山保育所の増築が必要と考えるが、今後の対策について本市の考えを問う。
- (2) 三山木保育所のトイレは、老朽化しており使い勝手が悪い。子どもが気持ちよく使用できるよう改修すべきと考えるがどうか。

1 「わたるくん」が泣いている！通学路表示板の改善を望む

市内各所にある児童横断用の表示板が、ペンキが剥げ落ちたり破損が目立つ。道路補修と同様にきっちりと予算を取り、早期に改善すべきである。

2 外向きに発信する 15 周年記念事業を

内向きの記念式典だけではなく、お金をかけずに京田辺を内外に発信する事業を提案する。

- (1) 市制移行時には、NHK のど自慢を開催されたと聞く。歴史と文化のある本市を、例えばNHK「鶴瓶の家族に乾杯」、大河ドラマへの「一休さん」誘致など、まちを題材にするマスコミを活用し発信する。
- (2) 平成18年発行された「京田辺大百科」は、発行からすでに6年経つ。人的には、市長、議長の変更、内容面でも、第二京阪開通、山手西・同志社山手自治会発足、ウェルサンピア、法務局京田辺出張所の廃止など、現実と相違している部分がかかなり掲載されている。この際、石井明三市長版「京田辺大百科」(改訂版第2版)発行を期待する。

3 庁舎施設電力購入の入札を提案する

京都市、国立市で実施されている電力購入について、PPS(特定規模電気事業者)を含めた競争入札を検討すべき。大幅なコストダウンにつながるだけでなく、関西電力=原発依存の電力需給のリスクヘッジにもなる。

4 住民票など各種証明書をコンビニで受給できるように

コンビニで、税金納入できるシステムを平成22年度から導入して、一定の成果はあげた。それだけ、コンビニは市民生活に溶け込んでいる。さらに、

鈴木 康夫

市民サービス向上のため、先行自治体で実施されている各種証明書のコンビニ発行への取り組みを問う。

1 原子力に依存しないエネルギーへの転換について

- (1) 関西電力の原子力発電に依存しない電力の調達を行い、経費節減、再生可能エネルギーの活用を。
- (2) 「京田辺市地域エネルギービジョン」を策定すべきと考える(宮津市の事例から)。

2 京田辺市の文化等活動拠点整備について

- (1) 中央公民館の建て替え計画について
- (2) 生涯学習センター、「文化ホール」等の文化活動拠点の計画について
- (3) 中・長期の見通しと計画策定にむけて市民参加の「文化等活動拠点を考える懇話会」をつくり、研究や検討のアクションを起こすべきと考える。

1 道路環境と今後の整備計画等について

- (1) 幹線道路、準幹線道路及び生活道路の見極めと、その整備手法（アスファルト等）について問う。
- (2) 府道富野荘八幡線の今後の計画と、交通量の増加並びに振動問題の対策は。区画整理事業にも影響を与えていると考えられる市の対応は。
- (3) 山手幹線の渋滞緩和策は、八幡市でも問題となっていると聞く。京都府・京田辺市・八幡市の3者による意見交換会等を行い対策を考えているのか問う。
- (4) 交通渋滞緩和策である、都市計画道路池ノ端丸山線を含む今後の取り組みについて問う。

2 学校教育環境整備について

- (1) 各小中学校における便所の整備状況について問う。
- (2) 通学路の安全対策は、桃園小学校、大住小学校等で安全策が必要との要望が多く出ていると聞くが、教育委員会としての見解及び対応は。
- (3) 小中学校における式典で来賓の態度に問題があると感じられる来賓や保護者が数多くおられる。生徒に悪影響が出ると感じている保護者も多い。いかに対応するのか問う。
- (4) 校区割については所管の連携を密にし、ぶれることのない線引きが必要と考えるが市としての考えと方向性について問う。

3 市有地の売却について

売却を予定した時点から、まちづくりがどうあるべきか。また、売却する土地に対し、付加価値をつける意味からも一定の問題を残さないよう、測量及び附帯する整備は必要と考える。なお、重要事項説明書と同等の書類を添

付すべきと考えるが市の考えを問う。

4 インフラ整備について

健康ヶ丘地区の世帯数がこの数年間に著しく増加し、生活道路における人や車の往来が増え、非常に狭い道路での事故等（離合時の脱輪）が多発している。また、排水路が劣悪なため雨量が多少増えるだけでオーバーフローする状態である。改善意向は示すものの実施に至らないのは何故なのか問う。

5 大住土地区画整理事業と防賀川改修について

同意しがたい理由の中に、納税猶予と治水問題がある。特に治水問題は府の管理下にあるが、市としてどのように取組まれるのか問う。

6 救急医療問題について

事故等による負傷者や急病による患者を緊急に救急車で病院まで、搬送するためには、病院と救急現場との交信によりスムーズな受け入れ態勢が基本であるが、救急車の到着から病院への搬送に時間がかかっているのが現状である。救急搬送と病院の受け入れ態勢について問う。

1 高齢化社会を迎える本市の課題解決に向けて

- (1) 各地域での拠点づくりとサポート体制の整備について、市の見解を問う（宇治市にあるたんぼぼハウスの事例より）。
- (2) 各地域の商店街を残せるよう、さらなる取り組みの推進を求める。
- (3) 市内の個人商店や生産農家等と連携し、食料品等の個人宅配や特定地域への出張販売に対するサポート体制の確立を求める。
- (4) 近鉄新田辺駅踏切歩行者道の再整備と東側道路の拡幅計画について問う。
- (5) 近鉄新田辺駅東側周辺（駅前広場を含む）の整備について問う。
- (6) 以前に米原市の取り組みを紹介したが、本市においても各地域の高齢化率等を細かく算出し、聞き取り調査も行うなどして地域課題の整理を行うことが重要と考えるが、市の認識を問う。

2 環境にやさしいまちづくりと健康増進の取り組みについて

- (1) ノーマイカーデーの取り組みを。
- (2) 市民プールで行われている水泳マラソンのような形で、歩行マラソン等の取り組みを行うことも、健康増進には一定の効果があると考えます。また、一日の野菜摂取量を記録できるようなシートを作成・配布し、自ら書き込んでもらうようにすることで、バランスの取れた栄養とカロリー摂取のコントロールができるようになると考えますが、市の見解を問う。
- (3) 来庁者対象の駐車場の有料化（市の施設も含む）について、検討すべき時期にきていると考えますが、市の認識を問う。

1 子育て支援策について

- (1) 待機児童対策の一環として家庭的保育事業（保育ママ制度）の必要性も考えられるが、今後の見解は。
- (2) 「赤ちゃんの駅」事業を行う考えは。

2 教育委員会に問う

- (1) 4月から中学校では武道が必修化されるが、今後、武道場を整備する予定はあるのか。
- (2) 安全面などが指摘されているが、本市ではどのような安全対策を充実させていくのか。

3 基幹システムについて

- (1) 市町村でも自治体クラウドが注目されてきているが、クラウドシステムに対する本市の考えは。
- (2) 今後クラウドシステムを導入していく考えは。

4 公共施設での電力確保について

電力確保のため、新たな事業として市役所庁舎、公民館、小中学校等の施設への電力供給元の切り替えを行っている自治体もある。本市でもこういった取り組みが今後必要と考えるが、市の見解は。

1 市政への市民参加の促進について

- (1) 本市における市政への市民参加の現状と課題について、市長の認識を問う。
- (2) パブリックコメント制度の積極的な運用へ向けた改善を。
- (3) 市政懇談会（市長と住民の地域別などの懇談会）の開催に取り組むべきと考えるが市の見解を問う。
- (4) 市の審議会などは、原則としてすべて市民公募委員を取り入れ、会議も公開すべきと考えるが市の見解を問う。
- (5) 市民参加基本条例の制定に取り組むべきと考えるが市長の考えは。

2 特別養護老人ホームなど、入所施設の拡充を求める

- (1) 高齢者が安心して暮らせるよう、特別養護老人ホームなど、入所施設の拡充を求める。
- (2) 高齢者の在宅介護について、多くの場合、家族に介護の重い負担がかかっている。市として、これらの介護している家族の方への支援を強めることが必要と考えるが、市の見解を問う。

3 学童保育（留守家庭児童会）について

- (1) 学童保育の対象を小学6年生までひろげることを求める。
- (2) 学童保育の施設の拡充、改善を求める。
- (3) 学童保育の職員体制の充実（職員数、研修の実施、勤務条件など）について、市の見解を問う。

4 山城人権推進ネットワーク協議会の財政運営について

青木 綱次郎

- (1) 年間予算編成について、総額決定方式を改めるよう京田辺市として提起することを求める。
- (2) 補助金支出について、見直すべきと考えるが市の見解を問う。

1 条例制定について
(1) 建築条例制定について (2) 美化条例制定について
2 南部住民センターについて
南部住民センターの前向きな建築の検討が進行しているのか。
3 事故被害を減少させる安全対策について
京田辺市として、京都府に働きかけて京田辺市内の府道整備の促進を要請してはいかがか。
4 災害対策に備えての京田辺市の在り方について
災害が起きたときの救助活動を市としてもっと綿密に考えるべきではないか。